

防災教育

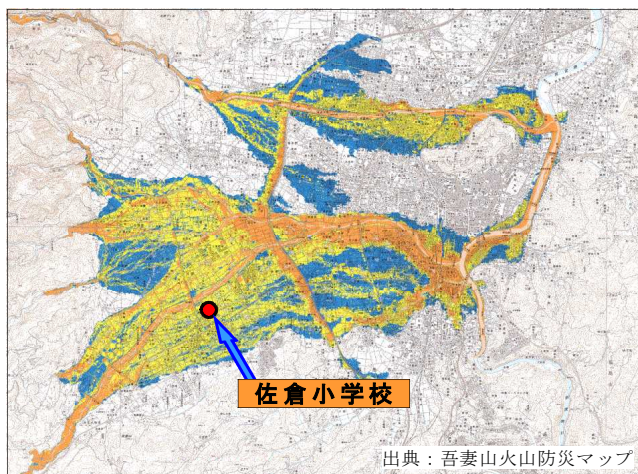
福島市立佐倉小学校

ホームページ掲載資料

防災教育全体計画

1 想定される災害

- ・ 吾妻山火山防災マップから
(積雪時のマグマ噴火の際、融雪による火山泥流は、50cm～2mの最大流動深を想定)
- ・ 大雨による荒川の氾濫による水害
(台風や集中豪雨により、荒川の水位が上昇し氾濫することを想定)
- ・ 地震や火災などの緊急災害



【大規模な融雪による火山泥流ハザードマップ】

2 防災教育についての方針

- (1) 防災教育は、吾妻山の噴火も想定して日常の指導を行い、正しい知識を身に付けさせる。
- (2) 具体的な災害状況を設定した防災訓練（避難訓練・引き渡し訓練）を実施し、自ら考え、判断して行動できる態度を養う。

3 指導目標

- (1) 学校における事故防止と日常の安全な生活のために必要な知識・習慣・態度・能力を養う。
- (2) 自他の生命を尊重し、学校や家庭及び社会の安全に役立つことのできる態度・能力を養う。
- (3) 地震や火山の噴火等の自然災害、火災発生時に、迅速に避難し自分や他人の生命を守ることができる知識・習慣・態度・能力を養う。

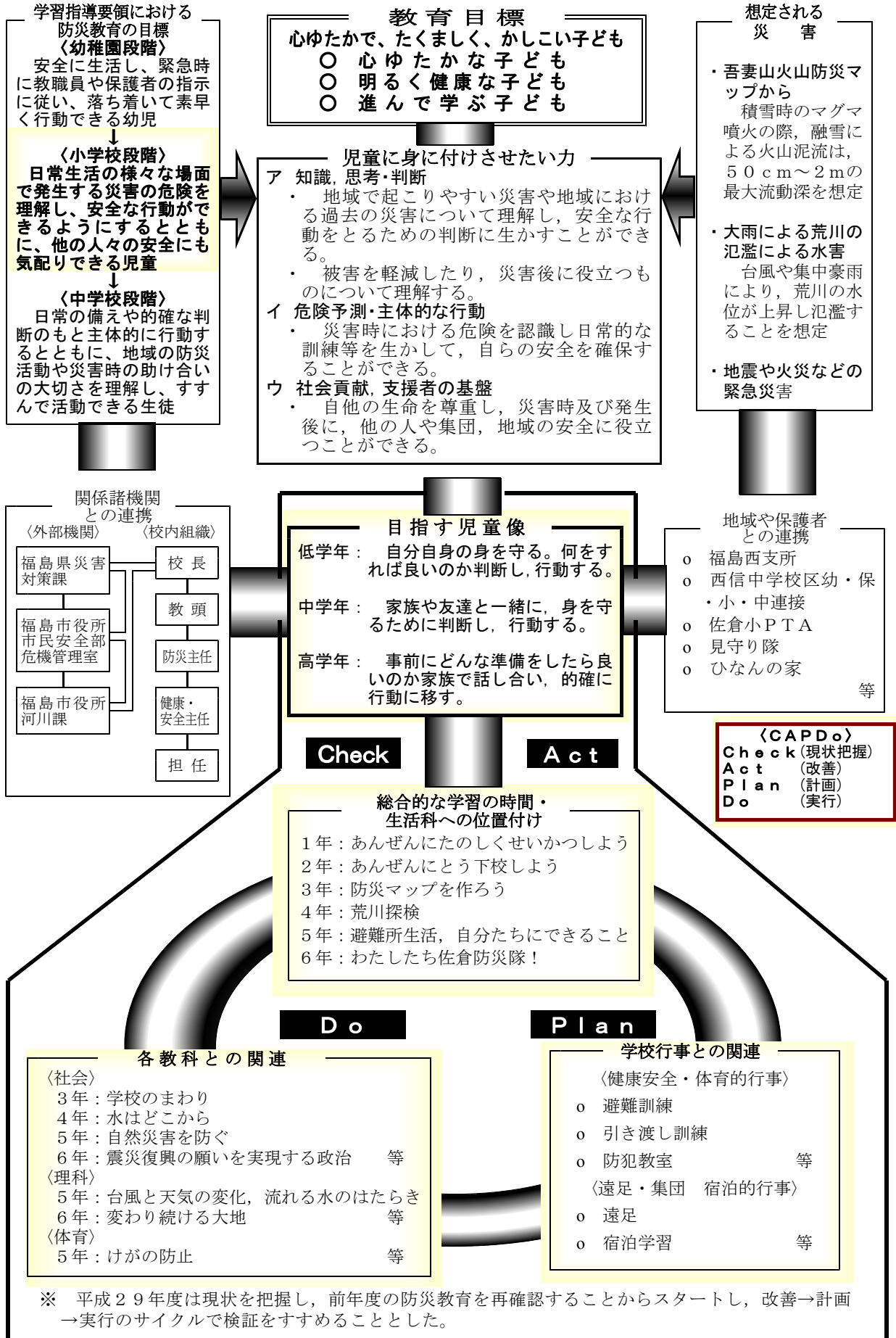
4 児童に身に付けさせたい力

- (1) 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる力。
(知識, 思考・判断)
- (2) 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができる力。
(危険予測, 主体的な行動)
- (3) 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる力。
(社会貢献, 支援者の基盤)

5 目指す児童像

- ・ 低学年…自分自身の身を守る。何をすればよいのか判断し、行動する。
- ・ 中学年…家族や友達と一緒に、身を守るために判断し、行動する。
- ・ 高学年…事前にどんな準備をしたらよいのか家族で話し合い、的確に行動に移す。

防災教育全体構想図



保護者・地域と連携した「さくら防災デー」(全学年)

学校防災担当

1 目的

- (1) 地震や火山噴火による泥流などの非常災害に際し、生命・身体の安全を守るための必要な知識、態度・習慣を身に付ける。
- (2) 非常災害の際の対処の仕方、心構えなどについての意欲を高める。
- (3) 指示に従い、統制のある集団行動の下に規律正しく安全に避難できるようにするとともに、引き渡しカードによる緊急時下校体制を理解する。

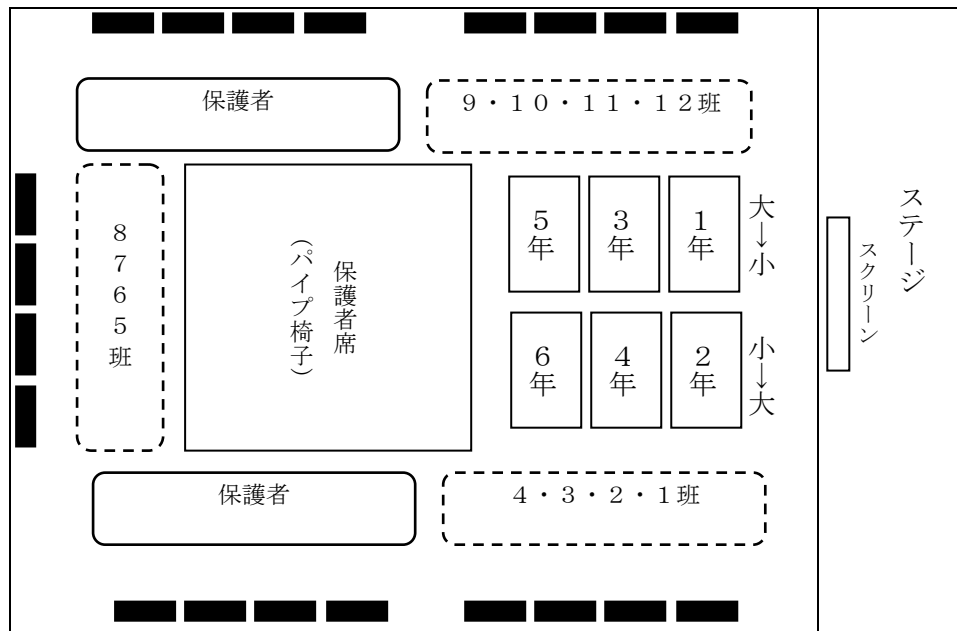
2 日時

平成29年6月24日(土) 第1～4校時

3 日程

時刻	1～3年	4～6年
7:50～ 8:10	講師来校 体育館準備 登校	
8:10～ 8:20	健康観察・音楽室に移動	健康観察・椅子を持って体育館に移動
8:25	音楽室集合完了	体育館集合完了
8:30～ 9:15	1. 担任による授業 「青少年赤十字防災教育プログラム」(30～45分) ・DVD等を使い、風1 水害・火山災害を中心に授業を行う。	司会：防災担当 1. 校長先生のお話・講師紹介(校長) 2. 出前授業①(講師：日本赤十字社福島県支部 防災教育指導員) 「防災コミュニケーションワークショップ(BCW)竹ひごタワー」(45分) ・縦割り班12グループ。 ・1グループ5～6人で行う。 ・4～6年担任は、担当班の竹ひごタワーをメジャー等で測定する。 ・保護者も5～6人グループを作り、活動に参加する。 ・PTA役員は、保護者の班のタワーを測定する。
9:15～ 9:25	休憩・椅子を持って体育館に移動 (※下学年は3へ)	休憩
9:25～ 9:45	3. 出前授業②(講師：日本赤十字社福島県支部 事業推進課係長) 防災についての講話(20分)	
9:45～ 9:50	4. 御礼と閉会の言葉(教頭) 5. 講師退場 6. 諸連絡	
9:50～ 10:05	下校指導・休み時間	
10:10～ 10:35	避難訓練(佐倉幼稚園と合同)	
10:50～ 11:30	引き渡し訓練(佐倉幼稚園と合同)	

4 防災出前授業配置図



※ 周囲に長机を置く。

※ 前日準備は、全職員で放課後に行う。

- ① 体育館…全職員（施設開放のため、長机20台、スクリーン等を、ステージ上に準備する。）
- ② 音楽室準備…1～3年担任
ワークショップ準備…4～6年担任

※ パイプ椅子は、当日の朝準備する。周囲に長机を置く。

5 避難訓練

(1) 想定

休み時間に吾妻山(一切経)が噴火
1次避難所(2階)へ避難
その後、泥流が来たため2次避難所(3階)に移動
泥流が収まったため、体育館に移動し、保護者へ引き渡す。

(2) 訓練内容

- ① 児童には事前に予告し、休み時間から実施する。
※ 教室にいない場合にはその場所からの避難をする訓練となる。
- ② 避難の仕方については、朝の会などで事前に指導する。
 - ア 避難経路の確認
 - イ 災害時の対応の仕方
 - 近くにいる教職員の指示をよく聞き、それに従って行動させる。学用品は携行させない。
 - 屋外にいる児童は、近くの入り口から校舎に入り、下足をもって避難させる。
 - トイレ等に児童がいないかを確認する。
 - 「押さない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」を徹底させる。
 - ガラスの下や近くをできるだけ通らないで避難させる。
 - 状況に応じて、低学年を優先する。
 - 集合場所では、素早く整列させ、人員点呼をする。
 - 集合後、腰を下ろさせて無言で次の指示を待つように指導する。
 - 防塵対策のため、ハンカチ等を口に当てるようにする。

- ③ 月曜日に各学級で事後指導を行い、反省する。

(3) 避難順序・内容

	時刻	学校側の対応	教師の指導及び行動
1 事前	朝の会など	※ 本部，救護所設営の準備	○ 災害時の対応の仕方の指導 ○ 避難経路の確認 ○ 避難訓練に際しての心構えの指導
2 避難訓練	10:10 1次避難	通報訓練 ☆ 非常ベル（10秒間）→ ◎ 職員室から放送 「避難訓練。噴火です。 吾妻山が噴火しました。噴火により雪解け水が押し寄せてくる危険があるので、児童はすぐに2階に避難しなさい。避難開始。」 ● 幼稚園・・・小学校に避難を開始し、3年教室で待機する。	○ 教頭が行い，校内・体育館・校庭に放送。 ※ 校庭はベルが聞こえないので教師が指示する。 ○ 放送をよく聞かせる。 ※ 教師が指示をしっかりと出すこと。 ○ 居合わせた児童に，避難の指示をする。担任は2階の各教室に誘導する。 ※ 出席簿・学級旗を持つ。（担任） 幼稚園生 → 3年教室 1・2年 → 図工室 3・4年 → 4年教室 5・6年 → 理科室 ○ 指定場所に児童を誘導後，人員確認をして本部へ連絡する。 ☆ 人員報告（担任→教頭→校長） ※ 本部は，2階水道場の前 第○学年○○名，避難完了しました。 ××，△△が所在不明です。 （不明の児童がいた場合は，児童の世話を隣接学年の担任に依頼し，不明児童を検索する。）
	10:23 2次避難	◎ 2F水道前からメガホン 「噴火による泥流が流れてきました。児童の皆さんは，先生の指示に従い3階に避難しなさい。」	○ 学年ごとに速やかに3階へ移動する。 幼稚園生 → 家庭科室 1・2年 → 5年教室 3・4年 → 音楽室 5・6年 → 6年教室
	10:33	◎ 3F水道前からメガホン 「泥流の危険がなくなりましたので，体育館に移動します。児童の皆さんは，先生の指示に従って教室に戻り，帰りの用意を持って体育館に移動します。引き渡し訓練を行います。」	○ 帰りの用意を持って，昇降口に寄り下履きを取って体育館に移動する。 ○ 下履きは，裏返しにして各自近くに置く。
	10:35	安心安全メール配信（教頭）	
3 事後	10:40 全体指導	体育館 進行：防災担当 ◎ 校長先生のお話	

6 引き渡し訓練（体育館・校庭）

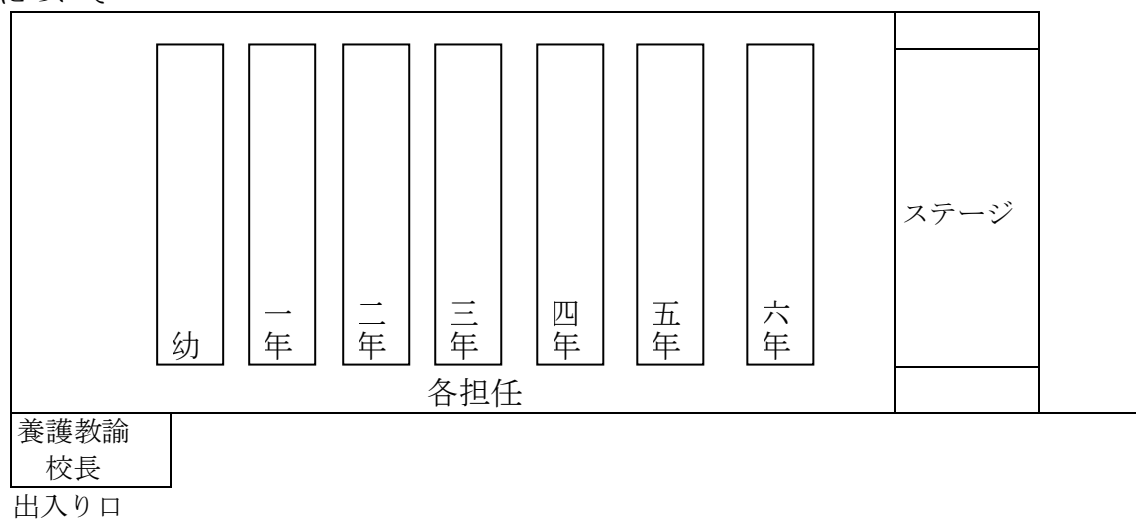
10：50開始

- ① 幼・小保護者…児童名と続柄を告げる。
- ② 養護教諭・幼稚園教諭…引き渡し児童名を、マイクで体育館にいる担任に知らせる。
養護教諭 …引き渡しカード（全学年用）で、引き渡した児童をチェックする。
- ③ 担任 …引き渡しカード（各学年用）で、引き渡した児童をチェックする。
※ 各学年の引き渡しカードは、児童の避難後に教務が持ち出し配付する。
- ④ 防災担当 …引き渡し訓練に参加しない保護者の子どもは体育館で下校時刻（11：30）まで待機させる。
 - ・兄弟がいる場合は、一緒に待機させる。
 - ・同じ下校班または近所の児童同士で待機させる。
 - ・下校時刻になったら、安全を確認して下校する。

7 係分担

係名	任 務	担 当 者
本 部	通報，連絡，指示，引き渡しカード，マイク	校長，教頭，教務
誘導係	児童の掌握，避難場所への誘導	各担任
駐車係	駐車の指示，車の誘導	教務，PTA本部役員
救助係	児童の救助，けがなどの手当て	養護，（各担任）

8 体育館について



9 その他

- 上名倉，佐倉下の区長，西支所長，県・市の担当者に，訓練の様子を見ていただく。
- 出前授業の参加を保護者に呼びかける。

第1学年 生活科指導案

平成29年11月1日(水) 3校時
場所 1年教室

授業テーマ

友だちと探検しながら、学校の中の防災の設備を見つけたり、その働きを考えたりすることで、「防災」に対する意識をもつことができる授業

1 単元名 あんぜんにたのしくせいかつしよう (総時数13時間)

2 単元の目標

学校の施設及び学校生活を支えている人々や友だちのことが分かり、楽しく安心して遊んだり、安全に気をつけて生活したりできるようにする。

- 学校の施設の様子及び学校生活を支えている人々や友だちに関心をもち、楽しく学校生活を送ろうとしている。(生活への関心・意欲・態度)
- 災害や学校の中の安全を守るための表示や設備を知り、自分なりに考えたり、振り返ったりして、それを素直に表現している。(活動や体験についての思考・表現)
- 友だちと関わりながら学校の中の「安全」や「安心」を探し、それらと自分との関わりに気付いている。(身近な環境や自分についての気付き)

3 教師の思い

(1) 実態の把握

入学から半年以上が過ぎ、子どもたちは学校生活に慣れ様々なことを経験し楽しく生活している。学校安全(防災)に関しては、交通教室や地震・火山噴火等に関する避難訓練、また県総合防災訓練にも参加し、自分の身の守り方や避難する時の約束事などは少しずつ分かってきた。しかし、避難所の見学をしたり、様々な防災グッズに触れたりしても、それらが何のためのものであり、どんな風に役立つのか等についてはまだまだ考えることはできず、防災を自分たちに身近なものとして捉えることはできていない。

(2) 学習材の分析

学校生活に慣れるにしたがって、きまりを守れなくなったり、思いがけないけがをしたりということが増えてきた。避難訓練の時には、担任の話をよく聞いて行動することが大切だと指導しているが、休み時間などに避難をするときには、自分で判断して行動しなければならないこととなる。そこで、学校の中には様々な防災に関する設備があることを知ることで、いざと言うときには自分たちで判断し行動できるようにするとともに、それらによって「安全」に「安心」して生活できていることに気付かせる。また、自分たちでも気をつけなければならないことを考えさせることで、防災意識を高めていくことができると考える。

(3) 授業の構想

地震の時には、まず自分の机の下に身を隠すことはわかっているが、他の災害の時にはどのように行動し身を守ればよいのかよく分かっていない。また、1年生の子どもたちは、普段生活している校舎の中の施設でも、まだまだ気付いていないことが多くある。そこで、写真を頼りに、グループで校舎内1階で防災に関する設備を探しながら探検する。見つけたらそれが「どこにあって」「何の時に」「どのように役立つのか」を考えさせ、学校には地震以外にも自分たちの身を守るための安全の設備があることに気付かせる。また、設備だけでなく、先生方がみんなの「安全」を守るために様々なことに気を配っていることにも気付かせ、自分たちで気をつけて学校生活を送れるようにしていきたい。

4 学習計画

小単元	○学習活動	○評価規準
ともだちとがっこうをたんけんしよう (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が興味を持った場所にグループで探検に行く。 ○ 見つけたことや気付いたことを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行ってみたい場所を考え、自分たちで決め、約束を守って意欲的に探検することができる。 ○ 見つけたことや気付いたことを絵に描いたり、友達や教師に伝えたりできる。
さくら防災デー (4時間) 県総合防災訓練 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的な防災の知識を高める学習をする。 ○ 引き渡し訓練をする。 ○ 県総合防災訓練に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災訓練や防災に関する情報から、防災への関心を高めることができる。

<p>がっこう あん ぜん たんけん をしよう</p> <p>本時 1/3</p> <p>(3時間)</p>	<p>○ グループで学校の「安全」に関するものを探しに行く。</p> <p>○ みんなで何のための設備かを確認する。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p>	<p>○ 「安全」に関する表示や設備を見つけ、何に役立つのか考えることができる。</p> <p>○ 校舎内の防災施設を知り、防災意識を高めることができる。</p> <p>○ 学習したことを生かし、安全に生活するため自分たちに必要なことについて考えることができる。</p>
---	--	---

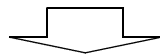
5 本時の手立て

① 手立て1 単元構想図(活動のイメージ)の作成

活動の流れや目指す資質・能力などを明らかにし、他教科との関連を図った単元を構想することで、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い」「願い」を引き出して学習に主体的に取り組むことができるようにする。

② 手立て2 写真や校舎図の活用

写真をてがかりにしたワークシートを活用しながら、校舎内の防災に関する設備を探す。また、見つけたものを校舎図に表すことで、視覚的にも「安全」「安心」をとらえやすくするようにする。



目指す子どもの姿

学校内の防災の施設や、学校生活を支えてくれている人がいることを知り、自分たちで「安全」「安心」に気をつけ友だちと一緒に楽しく学校生活を送ろうとする子ども

6 本時のねらい

友だちと探検しながら、身の回りの防災の設備の働きや安全のために気をつけていることがあることに気付くことができる。

7 板書計画

㉞ どこにどんな「あんぜん」があるのかな。

(写真)

(写真)

(写真)

やくそく
① おさない

② かけない

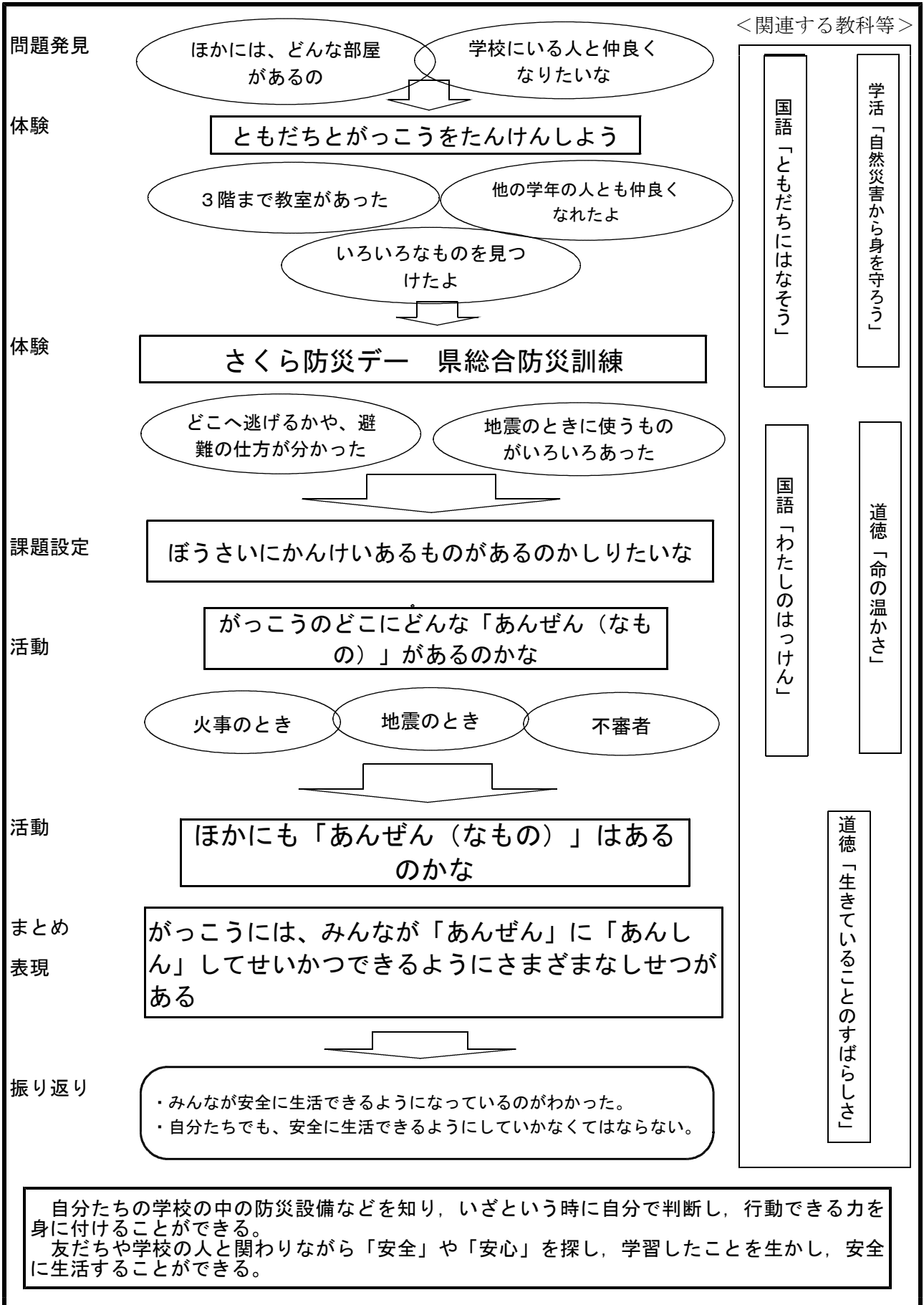
③ しやべらない

(校舎図)

㉟ がっこうにもたくさんさんの「あんぜん」がある。

8 学習過程

学習内容 ・ 活動	時間	・ 指導上の留意点 ○手立て ※評価
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どこにどんな「あんぜん」があるのかな。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> 地震の時の身の守り方や、防災訓練の時の様子を思い出し、学校の中に災害の時に役立つものがあるかを考えさせる。
<p>2 グループで安全探検をする。</p> <p>(1) 学校の中の防災設備について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 消火器 さすまた など <p>(2) 探検の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで担当するもの 探しに行く場所 探す時の約束 <p>(3) 安全探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけた場所 何の時に使うか どんな風に役立つか 	15	<p>○ 防災設備の写真を提示し、自分たちで探したいという意欲を高めるようにする。(手立て2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 消火器を例にし、グループごとに写真を手がかりに探検することを知らせる。 授業中なので、入ってはいけない教室や、出てはいけない場所を確かめ、安全にも気をつけるようさせる。 避難のときの約束である「お・か・し」をもとに、さらにグループで仲良く探検することを確かめてから、探検に出かけるようにさせる。
<p>3 探検の結果を発表する。</p> <p>(1) 見つけたものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 消火栓 防火扉 体育館への通路 さすまた 棚の固定 消火器の表示 非常口の表示 <p>(2) いろいろな災害に役立つ施設があることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 火事のとくに役立つもの 地震のとくに役立つもの 不審者に対して役立つもの 	18	<ul style="list-style-type: none"> 見つけた場所だけでなく、数やどのようなときに役立つかなども発表させるようにする。聞いている友だちの考えも聞いて、自分たちだけでなく、みんなの考えが深まるようにさせる。 <p>○ 調べてきたものの写真を校舎図に表示し、視覚的にも「安全」を捉えられるようにする。(手立て2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害ごとに色分けをし、家事や地震以外にも備えているものがあることに気付かせる。 設備だけでなく、先生方が安全に過ごせるように気を配っていることにも、気付かせるようにする。 <p>※ 身の回りには、自分たちの「安全」「安心」を守る設備や支えてくれる人たちがいることに気付くことができる。</p>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな災害に役立つものがあった。 先生たちが、みんなのために気をつけてくれていることもあった。 みんなでもう一度確かめに行きたい。 2階や3階にもあるか、調べてみたい。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが見つけてきたものの役割が本当にそれでよいのか、他の場所にもあるかなどを問ひかけ、次時への学習へとつなげていけるようにする。



第2学年 生活科学学習指導案

平成29年12月15日(金) 第5校時
場所 2年教室

授業テーマ

通学路で、安全を守るのに、どんな働きがあるかを考えることで、「防災」に対する意識をもつことができる授業

1 単元名 あんぜんにとう下校しよう (どきどきわくわくまちたんけん) (総時数 14時間)

2 単元の目標

学校や自分たちの町を知り、いざという時に自分で判断し、安全に登下校できるようにする。

- 自分たちが住んでいる町に関心をもち、いざという時に自分で判断し、行動しようとしている。
(生活への関心・意欲・態度)
- 町で見つけた安全を守るための表示や設備、施設を知り、自分なりに考えたり、振り返ったりして、学んだことを適切に表現して伝えることができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- 地域の人と関わりながら「安全」や「安心」を探し、それらと自分との関わりに気付いている。
(身近な環境や自分についての気付き)

3 教師の思い

(1) 実態の把握

児童は、これまでの学校生活や学習、行事などを通して、交通安全、防犯、自然災害から自分の身の守り方や避難するときの約束事について理解してきている。1学年では、学校内の防災の設備や自分たちの「安全」や「安心」を守るために支えてくれている人たちがいることに気付くことができている。2学年では、1学期に町探検を行い、佐倉地区内にある安全を守るための通路上の設備(縁石・フェンス・ミラー・信号機・標識)佐倉駐在所やそこで働く人やその仕事について知ることができた。また、11月には、下校時、通学路の「ひなんの家」を確認しながらあいさつをしてきた。しかし、まだ、防災を自分たちの身近なものとして考えることができているため、それらが何のためにあり、自分たちの「安全」や「安心」のためにどのように役立つのかについては、十分理解できていない。

(2) 学習材の分析

児童は、いつ起こるか予測できない災害に対して、学校内で身を守る行動の仕方については、繰り返し学習している。しかし、登下校時に災害が起こったらどうすればよいかについては、まだ具体的に考えることができている。毎日登下校している通学路の表示や設備、施設が何のためにあり、どんなときに役立つのかについて考えることは、いざという時に自分で判断し、安全に行動することにつながる。また、自分たちの「安全」や「安心」のために、地域の人々の見守りや協力があることにも気付かせることは、3学年の地域学習や「防災マップ作り」につなげることができる。と考える。

(3) 授業の構想

児童は、毎日登下校している通学路の安全を守るための表示や設備、施設について、当たり前にあるものとしてとらえている。そこで、町探検で見つけた安全を守るための設備や施設を写真から振り返り、その役目や働きについて考えさせる。そして、本時では、設備や施設の働きだけでなく、見守り隊や「ひなんの家」の方々など地域の人々が、自分たちの「安全」や「安心」のために気を配っていることに気付かせたい。そうすることで、登下校中に災害に遭遇したとき、自らが安全に行動する必要性に気付いたり、地域の人々に感謝の気持ちをもったりできるようにさせたい。

4 学習計画

小単元	○ 学 習 活 動	○ 評 価 規 準
あんぜんをまもっているものをさがそう (3時間)	○ 町探検をし、安全を守るための通路上の設備（横断歩道・縁石・フェンス・ミラー・信号機・標識）や佐倉駐在所について知る。	○ 町探検に関心を持ち、約束を守って安全を守るための通路上の設備や施設を見つけようとしている。
さくら防災デー (4時間) 県総合防災訓練 (4時間)	○ 基本的な防災の知識を高める学習をする。 ○ 引き渡し訓練をする。 ○ 県総合防災訓練に参加する。	○ 防災訓練や防災に関する情報から、防災への関心を高めることができる。
あんぜんにとう下校しよう 本時 2/3 (3時間)	○ 通路上の表示や設備、施設が何のためにあり、自分たちの「安全」や「安心」のためにどのように役立つのかについて話し合う。 ○ 自分を守ってくれている施設や人々の存在に気付く。	○ 自分を守ってくれている設備の役目や働きに気付くことができる。 ○ 自分を守ってくれている施設や人々の存在に気付く、感謝の気持ちをもつことができる。 ○ 自分で判断し、安全に行動しようとする気持ちを高めることができる。

5 本時の手立て

① 手立て1 単元構想図（活動のイメージ）の作成

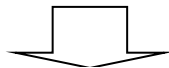
目指す資質や能力を明確にし、他教科との関連を図った単元を構想することで、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い」「願い」を引き出し、学習に主体的に取り組むことができるようにする。

② 手立て2 思考ツールの活用

思考ツール（表）の用紙をもとに、児童が考えをまとめたり、話し合いに生かしたりできるようにする。

③ 手立て3 対話的に話し合う場の設定と話し合いのコーディネート

グループや全体で対話的に話し合う場を設け、防災を自分のこととして受け止め、安全に行動しようとする気持ちを高めることができる。



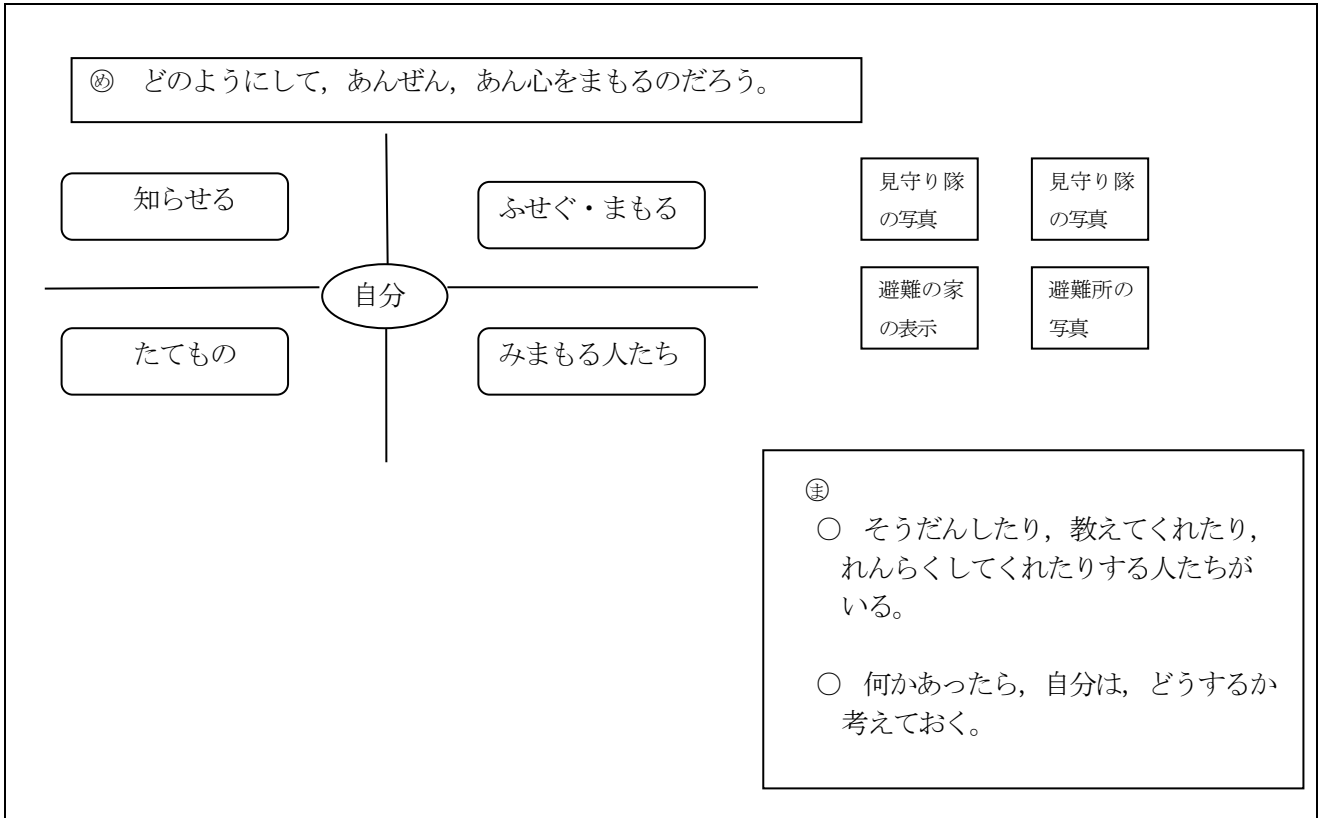
目指す子どもの姿

通学路にある安全のための表示や設備、施設の役目や働き、人々の存在に気付く、いざという時に自分で判断し、安全に行動しようとする子ども

6 本時のねらい

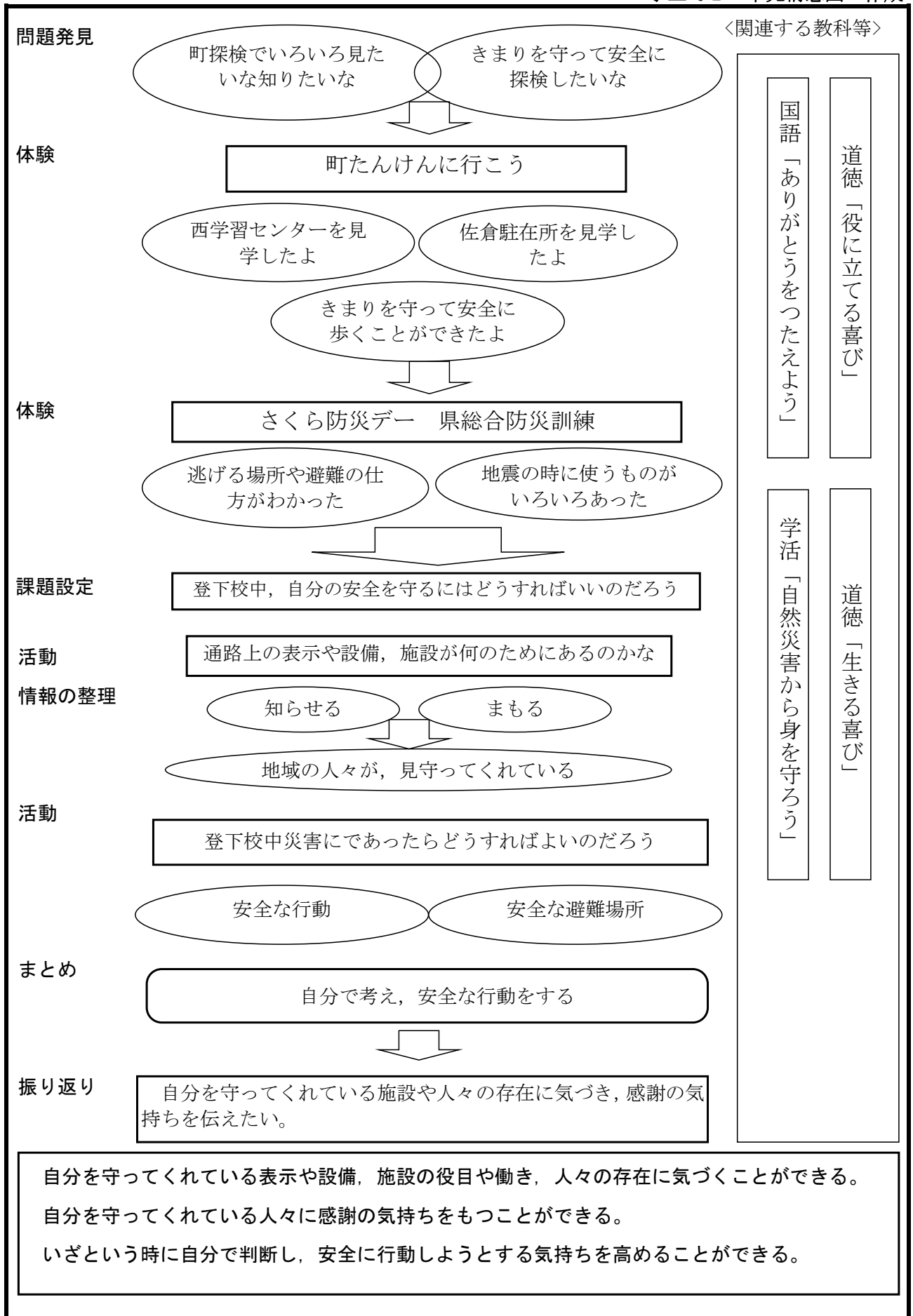
通学路にある安全のための表示や設備、施設の役目や働きを整理したり、話し合ったりすることで、地域の人々の存在に気付くことができる。

7 板書計画



8 学習過程

学 習 活 動 ・ 内 容	時 間	・ 指導上の留意点 ○手立て ※評価
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>どのようにして、あんぜん、あん心をまもるのだろう。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> 安全を守るものをたくさん見つけたことを想起し、どんな役目があるか考え発表させることで、本時の学習に関心をもたせる。
<p>2 安全を守るものに、どんな役目があるかを考え、表にまとめる。</p> <p>(1) どんな観点で表にまとめるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふせぐ・まもる 知らせる 見まもる人 たてもの <p>(2) グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> これは、どんな役目かな？ 学校ってひなんじょなんだ。 <p>3 全体で話し合う。</p> <p>(1) 表をみんなで確かめる。</p> <p>(2) 表のまん中に何が入るか考える。</p> <p>(3) 表から「安心」を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物の中には、地域の人々や先生方がいるから安心なんだ。 <p>(4) 安全を守るものがあまりない道路で、何か起こったらどうするか考える。</p>	20	<p>○ 思考ツール（表）の用紙をもとに、児童が考えをまとめたり、話し合いに生かしたりできるようにする。（手立て2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「見守り隊」の活動の様子の写真、学校前の避難所の表示、「ひなんの家」表示などを提示することで、安全を守る地域の人々や建物にも着目できるようにする。 前時に記入した「安全を守るもの」の用紙や写真を活用しグループで話し合うことで、表にまとめることができるようにする。 グループで話し合うときには、「どう思う？」と問いかけることで、みんなの考えを聞くことができるようにする。 表のまん中に入るものを考えることで、自分や自分たちの周りに安全を守るものがたくさんあることに気付くことができるようにする。 <p>○ 建物に逃げれば「安心」「安全」なのか問いかけることで建物の中には、相談したり、教えてくれたり、連絡してくれたりする人々がいることに気付くことができるようにする。（手立て3）</p> <p>※ 身の回りに「安心」「安全」があることに気付くことができたか。</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、これからの学習について考える。</p> <p>(1) 学習を振り返り、思ったことや分かったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全を守るものの役目が分かった。 地域の人々が、見守ってくれている。 学校は、どうして避難所なのかな？ 何かあったらどうするか考えておきたい。 「ひなんの家」のことをもっと知りたい。 「見守り隊」の人にお礼を言いたい。 <p>(2) 次時の学習について見通しをもつ。</p>	10	<p>○ 設備や施設があれば、いつも安全を守ることができるのかを問いかけたり、設備などがあまりない地域の道路の写真を提示したりすることで、自分が安全を守る行動をする大切さに気付くことができるようにする。（手立て3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの「安心」「安全」を守るものの役目や地域の人々の見守りがあることをまとめ、学習を振り返ることで、次時の学習につなげることができるようにする。



第3学年 総合的な学習の時間指導案

平成29年10月13日(金)2校時
場所 生活科室

授業テーマ

「防災家族会議」や友達との話し合いをもとに、避難場所や危険箇所について知り、防災意識を高めることができる授業

1 単元名 防災マップを作ろう (総時数24時間)

2 単元の見積

自分の家庭や地域に目を向け、避難経路や避難場所などを調べ、情報を集めて防災マップを作る活動を通して、防災活動を自分のこととして受け止め、防災意識を高めていこうとする。

- 防災意識を高めることを目指し、家族や友達と話し合っ活動したり、積極的に人と関わって活動したりしようとする。(人間関係力)
- 家族で話し合うことにより、家族の思いや考えを知ったり、自分が「防災」のために何ができるかを考えたりすることができる。(課題設定力)
- 家族の思いを知る活動や自分ができることを考える活動をするための解決の方法を自分で決めることができる。(計画作成力)
- 互いの考えの交流や地域の人々への取材活動などを通して、みんなのためになる防災マップをどのように作るかを考えることができる。(追究・探究力)
- 活動を通して気付いたことや考えたことを話したり、防災マップに表したりすることができる。(表現力)
- 家族や地域の人々の願いや思いを知り、家族や地域のよさに気付くとともに、自分にできることを考えて実践したり、今後の生活に生かしたりすることができる。(学習評価力)

3 教師の思い

(1) 実態の把握

子どもたちは、今まで防災訓練や生活科での町探検などを通して、防災についての意識を高めたり、学校での避難の仕方を知ったりしてきた。3年生になり、総合的な学習の時間として初めて「防災」について学習することになる。東日本大震災の記憶もほとんどなく、話には聞いていても、万が一自分の身に起こったら・・・と考えられる児童はいないのが本当のところである。自然災害について学習した時は、考えられる災害の多さに驚いていた。もし、学校以外で地震や川の氾濫、噴火などが起きた場合にどうしたらよいのか、備えはしてあるのかと尋ねたところ、防災グッズが備えてあると答えた児童は2名だった。また、家族で避難する場所等について話し合っている家庭はほとんどいない状況だった。しかし、8月に行われた「県総合防災訓練」では、地震の揺れを体験したり、様々な防災グッズに触れたりすることを通して多くの人たちが防災に関わっていることや、身近な問題であることに気付いてきたところである。

(2) 学習材の分析

校内では毎年必ず避難訓練や防災訓練を実施し、避難する場所や気をつけなければならないことを繰り返し学習してきているが、帰宅途中や遊びに行っているときに災害が起こったらどうすればよいかについては考えていない。家族会議を開こうという本学習材は、学校から身近な場所へと防災意識を広げ、さらに家族の一員としてどのように行動すればよいかを家族とともに考えさせることができる。また、自宅近くのマップ作りは、地区のマップ作りのよい練習になると考えられる。

(3) 授業の構想

家庭で避難する場所などについて話し合っていない児童がほとんどであるという実態から、「防災家族会議」を開こうと呼びかけ、各家庭で持ち出し品や家の近くの危険な場所、避難場所等について話し合いをもってもらう。そこで話し合ったことをもとに、調べたことを発表し合い、さらに必要な物や避難経路などについて見直すことができるようにしたい。また、学区の地図をもとに、身近な場所を「避難場所」という観点で見直したり、自宅付近のマップ作りを通して、防災への関心やどう対処すればよいかなどの防災意識を高められるようにしていく。

4 学習計画

小单元	○学習活動	◎学びどころ 【評価規準】
「さいがい」について考えよう (6時間)	○ 自然災害にはどのようなものがあるか話し合う。 ○ 共通体験を思い出しながら、災害が起きた時に、どうしたらいいかを考え、活動計画を立てる。 ・ 共通体験 「避難訓練」「引き渡し訓練」	◎ 自然災害にはどんなものか考え、「防災」についてどんな学習を進めていくのか見通しをもつ。 今までの体験や学習をもとに考え、今後の活動の見通しをもつことができる。
「県総合防災訓練」 (4時間)	○ 県総合防災訓練に参加する。	◎ 防災訓練を見学したり、防災グッズや防災関連のブースを体験したりすることにより、防災への興味・関心を高める。 防災訓練や防災に関する情報から、防災への関心を高めることができる。
「ぼうさい家族会議」を開こう 本時 3 / 4 (4時間)	○ 防災家族会議について知る。 ○ 「防災家族会議」で調べてきたことをもとに、持ち出し品について話し合い、必要な物を見直す。 ○ 「防災家族会議」で調べてきたことをもとに学区内の避難場所や危険な場所をマップに表し、気付いたことを話し合う。 ○ これからの活動計画を立てる。	◎ 自分の家の備えについて考え、災害時の備えについて話し合う必要性を知る。 ◎ 防災家族会議を開き災害時に必要なことを話し合う。それをもとに友達と話し合い、見直したり、問題点を見つけたりしながら、マップを作る。 収集した情報を活用したり、見直したりしながら、学区内のマップに表すことができる。
「佐倉地区のぼうさいマップ」を作ろう (7時間)	○ 地区を調べたり、知っている人に防災について取材したりする。 ○ 調べたことをもとに、3つに分かれて佐倉地区の防災マップを作る。 ○ 3つの防災マップを1つにまとめる。	◎ 防災という視点から地区を調べたり、家族やいろいろな人々にインタビューしたりしながら必要な情報を収集する。 ◎ 得た情報をもとに、協力し合って防災マップ作りを進め、自分や地区の防災に対する備えについて必要感を持つ。 収集した情報を整理して効果的に表現することができる。
作ったマップを発表しよう (3時間)	○ 完成した防災マップを発表する。 ○ 学習を振り返る。	◎ 活動の成果として防災マップを貼り、自分が地域の一員であることを実感する。 ◎ 防災に対する自分の思いを大切に、これからも自分たちにできることを考えていこうとする。 追求したことを自分との関わりの視点から深め、反省することができる。

5 本時の手立て

- ① 手立て1 単元構想図（活動のイメージ）の作成
活動の流れや目指す資質・能力などを明らかにし、他教科との関連を図った単元を構想することで、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い」「願い」を引き出して学習に主体的に取り組むことができるようにする。
- ② 手立て2 ワークシート「防災家族会議をひらこう」の活用
防災学習のワークシート「防災家族会議をひらこう」を使い、各家庭に協力していただき、防災について話し合ったことをもとに発表し合い、自分の備えについて見直すことができるようにする。
- ③ 手立て3 学区の拡大地図の活用
生活科室にある学区の拡大地図を使い、「防災家族会議」のワークシートや友達の発表などをもとに、自宅と避難する場所や避難経路、危険箇所を見つけたり、色分けしたりする活動を行い、避難箇所がいくつか絞られることや災害の種類に応じて避難する場所を考える必要性があることに気付かせ、防災への意識をより高められるようにする。



——— 目指す子どもの姿 ———

「防災家族会議」で話し合ったことをもとに防災への備えについて考え、話し合いや学区のマップ作りなどを通して防災への興味や関心を高める子ども

6 本時のねらい

「防災家族会議」のワークシートをもとに、佐倉地区の地図に避難場所や避難経路をまとめたり、気付いたことを話し合ったりする活動を通して、防災への関心を高めることができる。

7 板書計画

㊦ ひなん場所やきけんな場所を地図に表し、ぼうさいについて考えよう。

地図に表すもの

- | | |
|---------|----------------|
| ・自分の家 | シールをはる |
| ・ひなん場所 | ふせんをはる |
| ・きけんな場所 | 赤いマジックでしるしをつける |

分かることは？

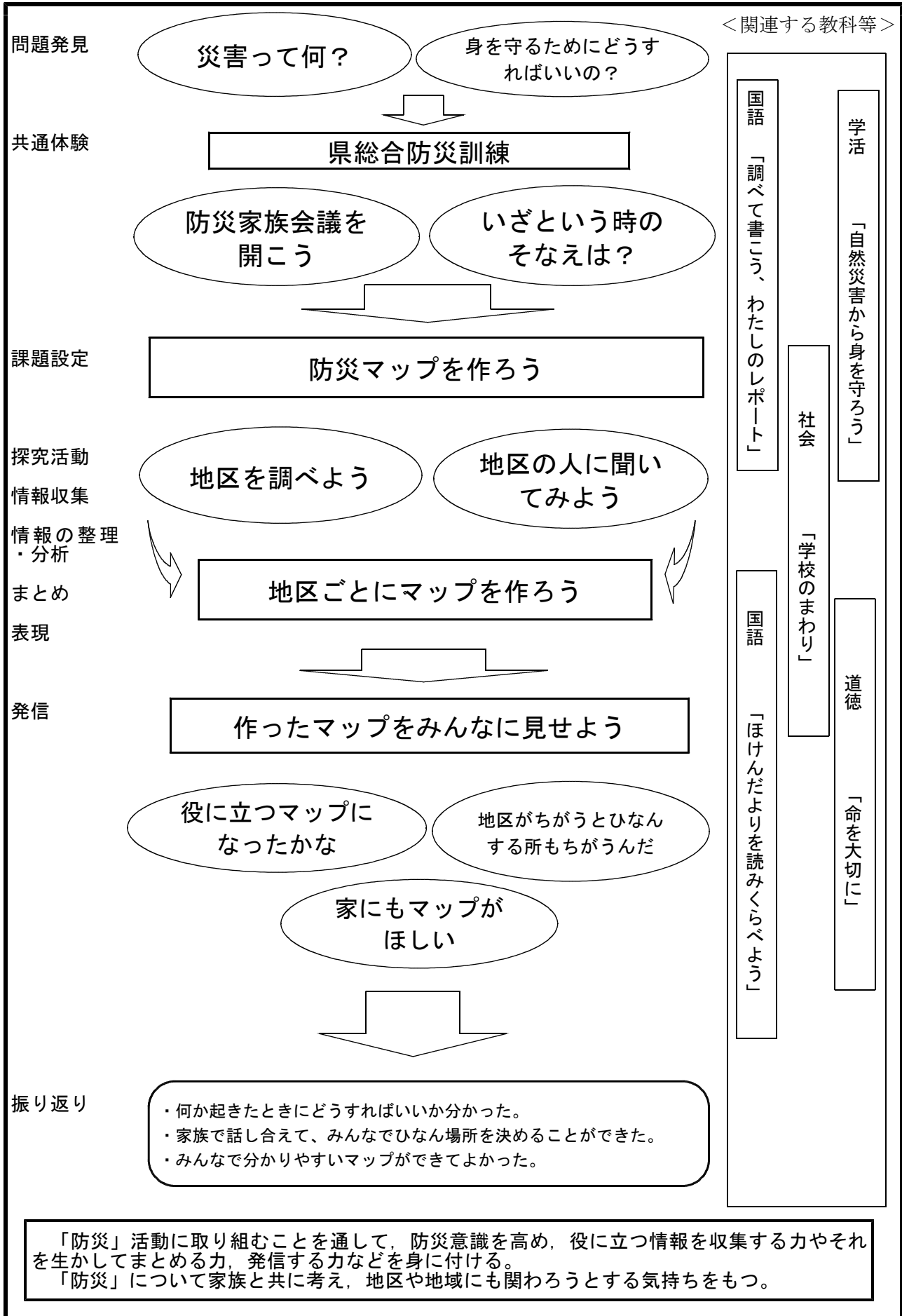
幼稚園の入り口の
「避難場所についての
表示」の写真



- ㊦
- ひなん場所は 学校が多い
学習センター
けんしゅうセンター
 - 家の近くにひなんする人がほとんど
 - 広い道路はきけんな場所にもなる
 - 地しんの時と火山のふん火やこう水では
ひなんする場所がちがう

8 学習過程

学習内容 ・ 活動	時間	・ 指導上の留意点 ○手立て ※評価
<p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> 前時の持ち出し品についての話し合いを振り返り、本時の学習へつなげる。 防災家族会議のワークシートやシール、付箋、マジック等を準備しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ひなん場所やきけんな場所を地図に表し、ぼうさいについて考えよう。</p> </div> <p>2 防災家族会議のワークシートをもとに、学区の地図に自宅や避難場所などを表す。</p> <p>(1) 避難場所等について発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ひなんする場所 学校 学習センター あぶない場所 川 へい ひなんする場所へ行くまでの道 広い道路 畑の道 <p>(2) 大きな地図に自宅や避難場所などを表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅 シール ひなん場所 ふせんをはる きけんな場所 赤 	1 5	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを事前にチェックし、意図的指名により発表が偏らないようにする。 生活科室の地図と見比べながら発表を聞くようにする。 自宅は、名前を書いたシールを貼るようにする。避難場所は、青い付箋を貼るようにし、集中する場所があることに気付かせる。 危険箇所は赤い印で目立つようにする。 <p>○ 「防災家族会議」のワークシートにまとめてきたことをもとに話し合うことができるようにする。(手だて2)</p> <p>○ 学区の拡大地図を活用し、防災家族会議で調べてきたことを分かりやすく表し、防災意識を高める。(手だて3)</p>
<p>3 学区の地図に表されたことをもとに、気付いたことを話し合う。</p> <p>(1) 避難する場所について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校が多い。 自たくの近くが多い。 さいがいによってちがう人がいる。 <p>(2) 避難経路について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学路が多い。 畑の道を通る人がいる。 道路が危険な場所になることがある。 	1 5	<p>※ 地図に表されたことをもとに、避難場所や経路、危険箇所について考えることができる。</p> <p>○ 地震や噴火、川の氾濫など、災害によって避難する場所が変わることを、ワークシートに書かれていたことをもとに発表させ、考えることができるようにする。</p> <p>○ 幼稚園の壁の「避難場所についての表示」を見せ、避難場所にはこのような表示があること、気付いていたかなどを確かめる。また、学区内で見たことがあるかを尋ね、地域を調べる必要性がもてるようにする。</p>
<p>4 学習を振り返り、これからの学習について考える。</p> <p>(1) 分かったことや感想を振り返り、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふん火の時は学校にひなんできないなんて知らなかった。 さいがいによって、ひなん場所がちがうことが分かった。 <p>(2) これからの学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼうさいについて、もっとくわしく地区を調べてマップを作ることを知る。 	1 0	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をし、意図的指名をして発表させ全体として学習が深められるようにする。 感想や気づきについて称賛し、次持の学習へつなげる。



第4学年 総合的な学習の時間指導案

平成29年11月29日(水) 5校時
場所 4年教室

授業テーマ

思考ツールを使って整理したことを視点に沿って話し合わせることで、荒川の「命を守るしくみ」と、「荒川のよさ」に気付くことができる授業。

1 単元名 荒川探検 (総時数38時間)

2 単元の目標

- 防災意識を高めることを目指し、友達と話し合っ活動したり、積極的に人と関わって活動したりしようとする。(人間関係力)
- 自分たちの身近にある荒川を見つめ直し、荒川と共に暮らすための「防災」について調べたり、自分が「防災」のためにどんなことができるかを考えたりすることができる。(課題設定力)
- 荒川について知るための活動や自分ができることを考える活動をするための解決の方法について、友達と話し合いながら決めることができる。(計画作成力)
- 互いの考えの交流をしたり、荒川に関係する方々へ取材活動をしたりなど、人々の思いを知る活動を通して、自分には何ができるかを具体的に考えることができる。(追究・探究力)
- 活動を通して気付いたことや考えたことを根拠をもって話したり、考えたことをポスターなどに表したりして、下学年や家族に向けて発信することができる。(表現力)
- 家族や地域の人々の願いや思いを知り、地域のよさに気付くとともに、自分にできることを考えて実践したり、今後の生活に生かしたりすることができる。(学習評価力)

3 教師の思い

(1) 実態の把握

子どもたちは、3年生の総合的な学習の時間において防災について学習してきた。社会科でのマップ作りの学習をもとに火山泥流を想定した防災探検を行い、自分が住んでいる地区の避難場所や危険な場所、工夫している場所について調べ、防災マップにまとめてきた。子どもたちは、災害の種類によって避難場所が異なっていることに気付いたり、災害が起きたときに自分がどこにいるかによって避難する場所も変わること気付いたりしてきた。しかし、これまでの学習では、災害が起きた時の対処や心構えで終わっている。4年生になり、社会科で水や用水の学習を進めながら、身近にある荒川についても調べ学習を行ってきた。学習を進めていく中で、床固や砂防堰堤、霞堤など、水害から暮らしを守るための仕組みがあることを学んできた。また、危険なだけでなく、7年連続水質日本一の素晴らしい川であることも学んだ。本児童は、昨年度の4年生に荒川についての発表を見せてもらったように、今年度は自分たちが学習してきたことを3年生に伝えたいという強い思いをもちながら学習を進めているところである。

(2) 学習材の分析

佐倉小学校のすぐ北側には、荒川が流れている。台風等による大雨の時には水位が上がり、近寄るには大変危険な川となる。実際に、荒川は昔から「あばれ川」と呼ばれ、堤防が決壊したり、橋が流されたりと氾濫を繰り返してきた歴史がある。一方で、荒川は7年連続水質日本一の川であり、多くの動植物が生息する豊かな川である。昨年度の防災学習では、災害時における荒川の危険性を知り、避難の仕方について学んできた。2年目となる今年度は、荒川に重点を置いて学習し、荒川についての視野を広げていく。人々は、荒川と共に暮らすため様々な「防災」の工夫をしてきたこと、災害を未然に防ぎつつ用水等として生活に役立っていること、自慢できる豊かな川であること等、様々な面から考えていく。地域の自然である荒川に対しての愛着をもつことができる学習材である。

(3) 授業の構想

本時は、荒川の学習で学んだことを3年生に伝えたいという思いが強い本児童の実態を生かし、伝えるべき内容について話し合う学習を行う。事前調査では、荒川でグループごとに調べた内容を伝えたいという児童が多く、思考の深まりが見られた児童は上位児童数程度であった。そこで、本時では思考ツールを使って児童の考えを把握しておき、意図的指名を行ったり、美しい荒川の写真を提示したりして、荒川のよさを引き出していく。次に、増水した荒川の写真を提示し、荒川は危険な面もあることに着目させる。災害が起きた時の防災だけでなく、荒川の氾濫を未然に防ぐ仕組みがあり、人々は荒川と共に暮らすために努力をしてきたことに気付かせたい。また、田畑を潤し、増水時には水を流す役割もある用水路にも触れ、「荒川のよさ」と「命を守る仕組み」に気付かせていきたい。本当に伝えるべき大切なことは何かを話し合うことで荒川に対する考えを深め、地域の自然に対する愛着をもたせていきたい。

4 学習計画

小単元	○学習活動	◎学びどころ 【評価規準】
「荒川」ってどんな川だろう？ (12時間)	○ 3年生の時の総合を振り返り、荒川に対するイメージについて話し合い、今後の学習への意欲を高める。 ○ 資料やインターネットでの調べ学習を通して、自分たちが実際に調べたい課題を明確にし、活動計画を立てる。 ○ さくら防災デー ○ 県総合防災訓練	◎ これまでの経験を話し合う中で整理されたテーマ「荒川」について、昨年度の学びを振り返ったり、資料やインターネットで情報収集をしたりして、見通しをもち、荒川への興味・関心を高める。 これまでの経験や既習事項とつなげて考え、活動の見通しをもつことができる。
荒川探検をしよう (4時間)	○ 調べたい内容ごとにグループを作り荒川探検に行く計画を立てる。 ○ グループごとに荒川探検を行い、調査や記録を行う。 (調べること) ・水質・水中生物・川の流れの速度 ・川岸の動植物・石など	◎ インターネットや資料で調べたことの中で疑問に思ったことを課題とし、グループでの計画をもとに荒川の調査を行うとともに、記録した内容を整理し、分析を行う。 グループで話し合っ計画を立て、調査をし、記録した内容を整理することができる。
荒川について、もっと詳しく知りたいな (12時間)	○ 荒川について疑問に思うことを出し合い、更に詳しく調べる方法を考える。 ○ 荒川の上流を探検する計画を立てる。 ○ 荒川について詳しく知るために、荒川資料室に行く計画を立てる。 ○ 荒川資料室・地蔵原堰堤で見学学習を行う。	◎ 情報収集したことの中から課題を設定し、見学をしたり、荒川に関わる方の話を聞いたりして、必要な情報を収集し、防災の大切さについての知識を高める。 見学学習で見聞きしたことの中から、必要な情報を収集することができる。
荒川探検で分かったことを伝えたいな 本時1/10 (10時間)	○ 荒川探検・荒川資料室・地蔵原堰堤・県総合防災訓練・西根堰など総合や社会科で学んだことの中から3年生に伝えるべき内容はどれか、それはなぜか、話し合う。 ○ 荒川探検などを通して学んだことを模造紙等にまとめ、発信する。	◎ 3年生に伝えるべき内容について話し合うことで、荒川のよさや、町を守る防災の仕組みについて考えを深める。 ◎ 3年生に活動の成果を発信したり、自分にできることを考えたりすることで、地域の自然への愛着をもつ。 友達と話し合うことで考えを深め、自分にできることを実践し、地域への愛着をもつことができる。

5 本時の手立て

- ① 手立て1 単元構想図（活動のイメージ）の作成
 目指す資質や能力を明確にし、他教科との関連を図った単元を構想することで、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い」「願い」を引き出し、学習に主体的に取り組むことができるようにする。
- ② 手立て2 思考ツールの活用
 前時までに記入した思考ツール（クラゲチャート）の用紙をもとに、児童の考えを把握しておく。話し合いの時に意図的指名を行うことで、より良い話し合いができるようにする。
- ③ 手立て3 対話的に話し合う場の設定と話し合いのコーディネート
 全体で対話的に話し合う場を設け、3年生に伝えるべきことは何かを問い返すことで、荒川に対する考えをより深めたり、情報を発信しようとする意欲を高めたりできるようにする。



—— 目指す子どもの姿 ——

荒川について学んだことの中で3年生に伝えたいことは何か、思考ツールを使って話し合うことで、荒川の「命を守る仕組み」と、「荒川のよさ」に気付くことができる子ども

6 本時のねらい

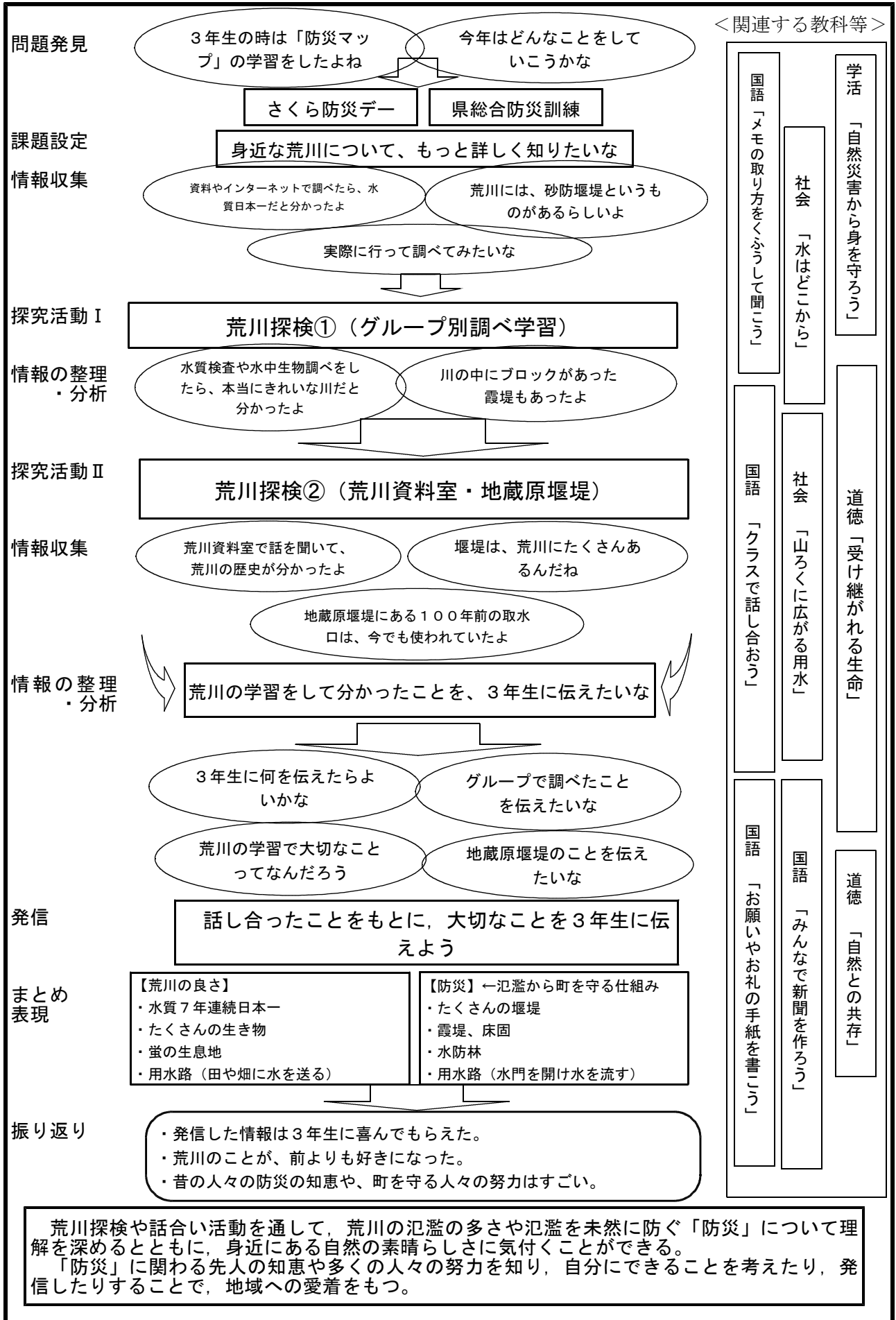
荒川について学んだことの中で3年生に伝えたいことは何か、思考ツールを使って整理したり、視点に沿って話し合うことで、荒川の「命を守る仕組み」と、「荒川のよさ」に気付くことができる。

7 板書計画

<p>㊦ 荒川の学習で学んだことの中で、3年生に伝えたいことは何だろう。</p>	<p>増水した荒川の写真</p>	<p>荒川の「命を守る仕組み」</p>
<p>美しい荒川の写真</p>	<p>「荒川のよさ」</p>	
<p>(伝えたいこと) グループで荒川探検をしたこと</p> <ul style="list-style-type: none">・水質検査 (本当にきれいな川だった)・水中生物 (きれいな川に住む生き物がいた) ヘビトンボ ホタル・動物 (イタチがいた)・植物 (ヤナギ・クレソン)	<p>(伝えたいこと) 荒川資料室</p> <ul style="list-style-type: none">・霞堤 (江戸時代から作られている) <p>地蔵原堰堤</p> <ul style="list-style-type: none">・堰堤の数 <p>用水</p> <ul style="list-style-type: none">・用水路 (増水時は水門を開け水を流す)	<p>荒川探検</p> <ul style="list-style-type: none">・現在の霞堤・床固 (ブロックを川に並べる)
<p>用水</p> <ul style="list-style-type: none">・取水口 (100年前から使われている)・田や畑に水を流す		
<p>㊧ (3年生に伝えるべき、大切なこと)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 荒川は、水質日本一のすばらしい川・じまんの川。○ 荒川の水を用水として使っており、生活に欠かせない川。○ 荒川には、町を守る防災の仕組みがたくさんある。○ 昔も今も、町を守る努力をしている人がたくさんいる。		

8 学習過程

学習内容 ・ 活動	時間	・ 指導上の留意点 ○手立て ※評価
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>荒川の学習で学んだことの中で、3年生に伝えたいことは何だろう。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきた内容(グループでの荒川探検, 荒川資料室, 地蔵原堰堤, 県総合防災訓練等)を書き出した紙を教室に掲示しておき, すぐに振り返ることができるようにしておく。 <p>○ 前時までに記入した思考ツール(クラゲチャート)をもとに, 本時の学習を進めていくことを確認する。(手だて2)</p>
<p>2 全体で話し合う。</p> <p>(1) 自分の考えを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川探検でグループごとに活動して分かったことを伝えたい。なぜなら, 荒川の水のきれいさを伝えた方がいいと思うから。 荒川探検で見つけた生き物のことを伝えたい。なぜなら, 荒川には生き物がたくさんいると分かったから。 <p>(2) 増水した荒川の写真を見て, 更に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川資料室で学んだ霞堤も伝えた方がいい。理由は, 荒川が氾濫しないように昔から工夫されていることを伝えたいから。 地蔵原堰堤で学んだ, 堰堤の数などについて伝えたい。なぜなら, 氾濫からくらしを守るための工夫があることを伝えたいから。 地蔵原堰堤は, 佐倉小の中で僕たちしか行ったことがないから, 伝えた方がいいと思う。 地蔵原堰堤には, 100年前の取水口もあった。荒川は, 田や畑に水を運んでくれている。私たちの生活に欠かせないものだということも伝えたい。 	<p>30 (10)</p> <p>(20)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普段の美しい荒川の写真や活動した時の写真をを掲示し, 荒川のよさに着目させる。 <p>○ 教師は, 思考ツール(クラゲチャート)をもとに児童の考えを把握しておき, 意図的指名ができるようにする。(手だて2)</p> <p>○ 荒川は美しいだけではないことから, 荒川のよさだけ伝えればいいのか問いかけ, 話し合いを深める。(手だて3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 台風が来たときの荒川の写真を掲示し, 荒川の危険性にも着目させる。防災の視点と自然のよさという2つの視点を明確にしておきたい。 児童の反応が良くない場合は, 増水時の動画を見せて考えるきっかけを作る。 昨年の学習を振り返り, 荒川は災害時は危険であり, 万が一に備えておく必要があることを思い出させる。一方で, 田や畑など, 荒川の恩恵を受けていたり, 水質日本一の自慢できる川であることを確認する。また, 川と共に暮らすために, 災害から町を守る仕組みや, 町を守る努力をしている人がいることを押さえる。
<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 学習の振り返りをワークシートに書く。</p> <p>(2) 書いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川は, 近づくると危ない場所だけではなくて, 私たちの生活に欠かせない大切な川なんだと伝えたい。 台風が来た時など, 災害が起こりそうな時は気をつけなければいけないけれど, 町を守る仕組みもたくさんあることを伝えたい。 早くみんなに伝えたいな。次の時間は発表の分担を決めて, 準備をしたいな。 	<p>10</p> <p>(3)</p> <p>(7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師は机間指導しながらワークシートを確認し, 良い意見を取り上げるようにする。 <p>※ 思考ツール(クラゲチャート)を使って, 3年生に何を伝えたいかを考えたり, 話し合いを通して考えを深めたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の話し合いを通して考えを深め, 伝えるべき大切なことに気付くことができたことを称賛して価値付け, 次時の学習へつなげる。



第5学年 総合的な学習の時間指導案

平成29年12月11日(月) 5校時
場所 5年教室

授業テーマ

避難所の実態が分かる資料や避難者の声をもとに、子どもである自分たちに何ができるかを考える授業

1 単元名 避難所生活, 自分たちにできること (総時数34時間)

2 単元の目標

避難所の体制や準備状況に目を向け、「防災」という課題に向き合っていく活動を通して、得た情報を整理する力を身に付けるとともに、整理したことから自分たちにできることを考え、防災の意識を高めることができる。

- 防災意識を高めていくために、友達と協力して活動したり、ゲストティーチャーや見学先の施設の方に積極的に関わって活動することができる。(人間関係力)
- 避難所について学習したことを生かして、自分たちにできることを考えることができる。(課題設定力)
- 避難所について知る活動や、自分たちができることを考える活動につなげるために、どのような活動をするとういかに考えることができる。(計画作成力)
- 体験したことや様々な資料を関連付けて読み取り、それを根拠にして避難所生活をどうするかについて具体的に考えることができる。(追究・探究力)
- 伝える相手を意識しながら活動を通して分かったことをどのようにまとめるとよいか考え、下学年に向けて発信することができる。(表現力)
- 自分の考えと現実の「ずれ」を認識し、自分の意見を再構築することができる。(学習評価力)

3 教師の思い

(1) 実態の把握

児童は5年生になって、避難訓練や結プロジェクト、さくら防災デー、県総合防災訓練など、様々な防災に関する活動を経験してきた。結プロジェクトでは、「災害に関すること」は「起きたときのための準備」「起きた時の行動」「避難所生活」に分けられること、「避難に関わること」は、「自分でやるべきこと」「地域で協力すべきこと」「地方公共団体にやってもらうこと」に分かれていることを学んだ。県総合防災訓練では、非常食体験や、避難所で使われる道具の見学を行っている。理科の学習では、「起きるまでの準備」と「起きた時の行動」に目を向けて学習をしてきている。知識はあるが、避難所を自分ごととしてとらえるのは難しく、非常食のカレーやダンボールベットなどの経験を「楽しそう」ととらえている児童もいるのが現状である。児童はここまでの学習で、見学で学んだことを整理し、「自分たちは避難所の中で何ができるのか」という疑問をもっている。

(2) 学習材の分析

避難所は、地方気象台が警報や特別警戒情報を出すことによって開設される。第一次避難所には寝ることができる広い場所、少量の非常食、毛布などの準備がある。長期の避難に対応するためには、支援物資を受ける必要がある。支援物資が届くまでの時間、自分たちが準備したもので生活しなければならない。また、そこで生活する人数によって、配給だけでも膨大な時間と人手が必要になり、他の避難者との協力が不可欠である。避難所生活をよりよいものにするために努力している人たちがいることへの感謝の気持ちを育てると共に、避難所の実態を知り、「自分たちに何ができるのだろう。」ということをも自分ごととしてとらえ、準備や協力の大切さを考えることができる学習材である。

(3) 授業の構想

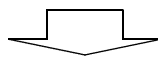
避難所になる施設の見学で分かったことを「避難所でできることとできないこと」に分類していく中で、児童から「避難所にいる人たちが役割を分担することはすぐにできるけれど、どんなことをしたらよいか分からない」という課題があがった。その課題を生かして本時の学習を行う。役割分担を考えるには、避難所の実態を知る必要がある。そこで、避難所の実態をとらえる資料として、実際の避難所生活を撮影した画像や東日本大震災時の避難者の声などを集めておく。それを児童に見せることで、抽象的だった避難所の生活の大変さ、つらさといったイメージをできるだけ具体的にし、より切実に自分たちができることを考えていくことができるようにする。そのあとで実際に避難所で活動する子どもたちの写真を見て、自分たちにできることを考えていくことができるようにしていきたい。

4 学習計画

小単元	○学習活動	◎学びどころ 【評価規準】
結プロジェクト (2時間) さくら防災デー (4時間) 県総合防災訓練 (4時間)	○ 防災の基本的な知識を高める学習をする。 ○ 引き渡し訓練を行う。 ○ 県総合防災訓練に参加して、避難所の生活について疑似体験する。	◎ 避難所生活は個人でできること、地域で協力すること、地方公共団体でやってもらうことに分かれていることを知ることができる。 避難の準備や経路だけでなく、避難したあとどうするかも大切であることを知り、今後の学習の見通しをもつ。
避難所について調べよう (6時間)	○ 避難所について知りたいことをまとめる。 ○ まとめたことを避難所になる施設の見学で確認する。 ○ 資料やインターネットで避難所についての理解を深める。	◎ 避難所では何ができて、何ができないのかを見学学習や資料をもとに明確にすることができる。 情報を整理することで疑問点を明確にし、新たな課題を作ることができる。
避難所の生活について考えよう 本時 2/8 (8時間)	○ 前単元で分かったことを生かして自分たちに何ができるか考える。 ○ 自分たちが考えたことは実現可能かどうか避難経験者に確かめる。	◎ 東日本大震災時の避難所の状態を知り、避難所体験者の意見を聞くことで自分たちに何ができるのかを自分ごととしてとらえ、考えることができる。 様々な資料を結び付けて情報を整理して、具体的に何ができるのかを考えることができる。
分かったことを発信しよう (10時間)	○ 伝えたいことや、相手の情報量にあわせて必要な資料を作成する。 ○ 伝えたいことや、相手に分かりやすく伝えるための表現方法を考える。	◎ 相手を意識してより伝わりやすい方法や資料を選んで表現することができる。 意図をもって資料や表現方法を選び、よりよく伝えるための工夫をすることができる。

5 本時の手立て

- ① 手立て1 単元構想図(活動のイメージ)の作成
目指す資質や能力を明確にし、他教科との関連を図った単元を構想することで、子どもたちの興味、関心を高め、「問い」や「想い」「願い」を引き出し、学習に主体的に取り組むことができるようにする。
- ② 手立て2 避難所の実態を伝える資料の準備
避難所の実態を撮った資料を見せたり、避難者の声を聞いたりすることで、児童が避難所生活を自分ごととして考えられるようにする。
- ③ 手立て3 対話的に話し合う場の設定と話合いのコーディネート
全体で対話的に話し合う場を設け、一人一人の考えを問い返したり、全体にゆさぶりをかけたりすることで自分の考えをより深めたり、新しい考えを生み出したりできるようにする。



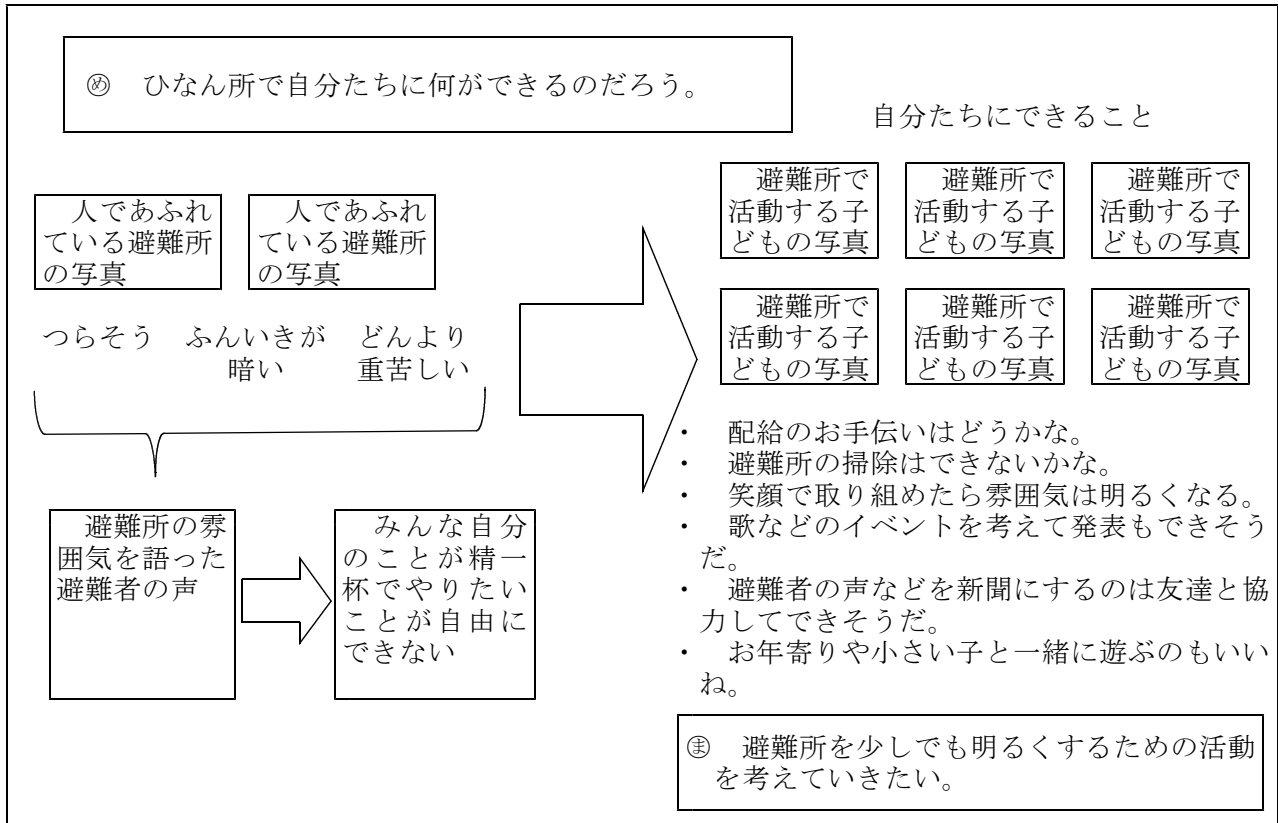
—— 目指す子どもの姿 ——

資料から避難所の状況を知ること、避難所生活を自分ごととしてとらえ、暗いイメージのある避難所生活を少しでも明るくする方法を考えることができる子ども

6 本時のねらい

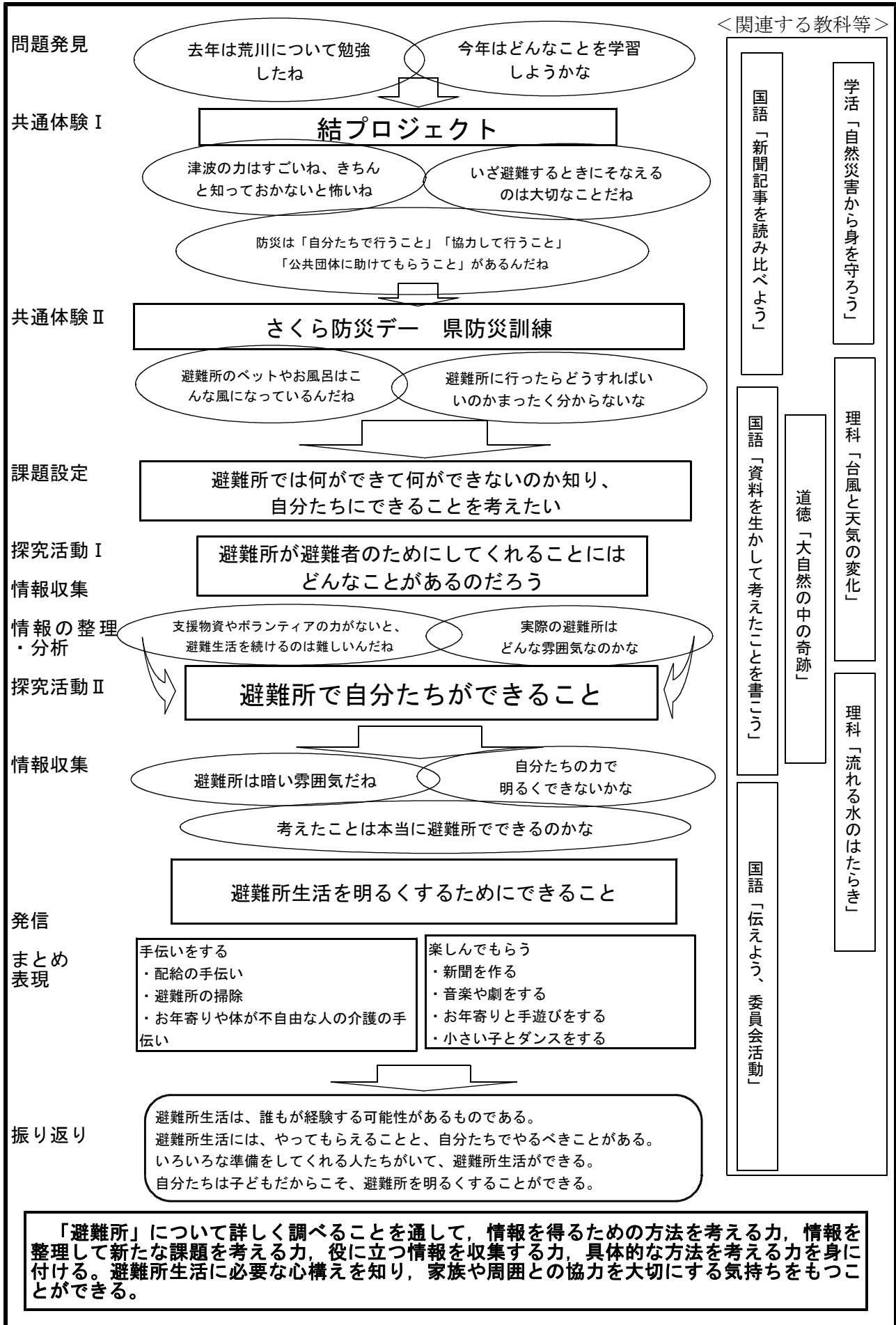
避難所生活を自分ごととしてとらえ、暗いイメージのある避難所生活を少しでも明るくする方法を考えることができる。

7 板書計画



8 学習過程

学習内容 ・ 活動	時間	・ 指導上の留意点 ○手立て ※評価
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ひなん所で自分たちに何ができるのだろうか。</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> 前時の段階で本時の学習内容を児童と一緒に考えておき、本時は確認するだけにする。
<p>2 資料から避難所の実態をつかむ。</p> <p>(1) 人が多い避難所の写真を見て、雰囲気を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 息苦しそう 暗い雰囲気 どんよりしていそう つらそう <p>(2) 避難所経験がある大人の声を聞き、避難所の生活の様子を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんな自分と家族のことだけで精一杯なんだね。 僕たちの力で避難所を明るくできないかな。 	1 0	<p>○ 避難所生活をしている資料を用意して、児童に避難所の実態をつかませる。(手立て2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所にいる大人たちは、自分と自分の家族をどう守っていくかで精一杯で、自分のやりたいことを自由にできるような環境ではなく、子どもたちがどう過ごすかは自分たちで考えてもらいたいと言う部分を取り上げる。
<p>3 避難所を明るくするためにどんなことができそうか自分たちで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが明るい気持ちになれるような活動をしたい。 お年寄りや体が不自由な人の手伝いをしたい。 小さい子どもと遊んであげたい。 避難所の仕事の手伝いがしたい。 	1 0	<ul style="list-style-type: none"> 教師は黒板に考えるヒントとなりそうな写真を貼り、児童の考えをうながす。 <p>貼る写真</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが掃除している写真 子どもたちが小さい子どもと遊んであげている写真 子どもたちが配給の手伝いをしている写真 子どもが避難所で作った新聞の写真
<p>4 考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 配給のお手伝いをしてみたい。 避難所の掃除をしてみたい。 笑顔で取り組み、明るい雰囲気にしていきたい。 歌などのイベントを考えて発表してみたい。 避難者の声などを新聞にするのは友達と協力してやってみたい。 お年寄りや小さい子と一緒に遊んでみたい。 道具がいらなくて楽しめる遊びを考えたい。 お年寄りに聞いてみるのもいいね。 	1 2	<p>○ 話し合って考えたことを全体に広げていく際にゆきぶりをかけたり、意見を結び付けたりしながら、考えを深めることができるようにコーディネートする。(手立て3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもでは担当するのが難しいことをしようとする意見が出てきたら、本当に子どもたちだけでそれができるか考えさせる。子どもたちだけでは難しいことについては、大人を手伝ってほしいという内容の避難者の声を聞かせる。 考えたことができるかどうか確かめるにはどんな方法をとればよいか考える。 <p>※ 写真をもとに避難所の実態を踏まえながら何ができるのかを考えることができる。</p>
<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 振り返りを書く。</p> <p>(2) 書いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所を明るくするためにできそうなことを考えられてよかった。特に新聞は自分でもできそうだと思う。 手伝いをすることばかり考えてきたけれど、楽しんでもらうことも必要だと思った。 	1 0	<ul style="list-style-type: none"> もっと他のアイデアがないか考え、実際にできるかどうかを避難者に確認する活動を行っていくことを伝え、次時への意欲につなげる。



授業テーマ

「避難所体験」の活動を思考ツールを使って振り返ることで自分の考えを整理したり、対話的に話し合うことで自分の考えを深めたり明確にしたりすることができる授業

1 単元名 わたしたち佐倉防災隊！ (総時数36時間)

2 単元の目標

地域に目を向け、地域の「防災」という課題に向き合っていく活動を通して、よりよい防災活動にするために、見通しをもって構想する力や具体的な方法を実行する力を身に付けるとともに、そこにかかわる多くの人々の思いを受け止め、地域の防災を見直したり、地域へ発信したりするなど、自分ができることを考え、取り組んでいこうとする。

- 地域の防災意識を高めることを目指し、友達と協力して活動したり、積極的に人に関わって活動したりしようとする。(人間関係力)
- 地域を見つめ直し、地域の人々の「防災」へ意識を高めてほしいという願いをもち、そこで暮らす地域の人々の思いを知る活動をしたり、自分が「防災」のためにどんなことができるかを考えたりすることができる。(課題設定力)
- 地域の人々の思いを知る活動や自分ができることを考える活動をするための解決の方法を自分で決めることができる。(計画作成力)
- 互いの考えの交流をしたり、全校生や地域の人々へ取材活動をしたりなど、人々の思いを知る活動を通して、人々の思いを実現化するために自分にできそうな具体的な方法を考えることができる。(追究・探究力)
- 活動を通して気付いたことや考えたことを根拠をもって話したり、考えたことをポスターなどに表したりして、全校生や地域の人々へ発信することができる。(表現力)
- 地域の人々の願いや思いを知り、地域のよさを再確認して愛着をもち、自分にできることを考えて実践したり、今後の生活に生かしたりすることができる。(学習評価力)

3 教師の思い

(1) 実態の把握

子どもたちは、5年生の総合的な学習の時間において防災について学習してきた。大雨が降ったときには荒川がどんな様子になるのか、また、水害を防ぐために荒川にはどんな工夫があるのかについて調べたり、吾妻山が噴火や火山泥流が実際に発生したときに自分たちができることは何かについて考えたりしてきた。しかし、これまでの学習は、自分たちができる範囲のことを考えるまでで終えている。6年生になって、子どもたちは、この学習を発展させ、自分たちだけでなく、地域の人々に向けた活動にすることはできないかと考えるようになった。運動会や鼓笛パレードなどの大きな行事を終え、6年生としての行事全てが小学校最後のものとなることを実感した子どもたちは、自分たちを支えてくれている人々、つまり、地域に住む方々の存在を意識し、その方々が喜んでくれる活動を行いたいという思いをもち始めている。

(2) 学習材の分析

佐倉小学校のすぐ北側には、荒川が流れている。普段は穏やかな流れの川だが、大雨の時には水位が上がり、近寄るには大変危険な川となる。また、学校の西側にある吾妻山は、現在も活動が続く噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)の活火山である。現在は落ち着いている吾妻山だが、万が一噴火をすれば、噴火に伴う融雪型火山泥流(冬季)が荒川をつたって居住地まで到達する恐れがあり、重大な被害が考えられるので、本校では、毎年、吾妻山の噴火やそれに伴う火山泥流を想定した避難訓練を行ってきた。それらの経験を通して、子どもたちは、防災への理解を深めてきた。2年目となる今年度は、自分たちが学んだことを誰かに伝えたいという思いをもつようになった。学校だけでなく地域へ目を向けることで、佐倉地区に住む人々に向けて情報を発信する活動も考えるようになってきている。地域または地域の人々への思いを常に活動の中心に置くことで、地域の人々と関わり、地域の一員として「防災」という問題に向き合い、自分たちに何ができるかを考えることができる学習材である。

(3) 授業の構想

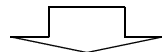
地域の「防災」を学習するにあたっては、子どもたちのいろいろなアイディアで、情報を集めたり、情報を整理したりして、地域の人々の役に立つ情報を発信することとする。本時では、これまでの活動を振り返ることで、今後、どのような活動をして、どのような発信方法を選べばいいか、自分たちの考えを明確にさせたい。そして、今後の活動の見通しをもたせていきたい。自分たちが進めようとしている活動を価値付けし、引き続き、今後の活動に自信をもって主体的に取り組むことができるように学習環境を整えていきたい。

4 学習計画

小単元	○学習活動	◎学びどころ 【評価規準】
<p>「もしものとき」はどうするの？</p> <p>(12時間)</p>	<p>○ 5年生の時の総合を振り返り、総合に対する思いや願いについて話し合い学習材やテーマを選定する。</p> <p>○ 共通体験を通して、自分たちが追究していきたい課題を明確にし、活動計画を立てる。</p> <p>・共通体験 「青少年赤十字防災教育プログラム」 「避難訓練」「引き渡し訓練」 「避難所体験」「県総合防災訓練」</p>	<p>◎ これまでの経験を話し合う中で整理されたテーマ「防災」について、これまでの活動を振り返ったり、新たな活動（「避難訓練」や「避難所体験」「防災訓練」）に取り組んだりして、それらの体験から学んだことをもとに、災害に対して備えることの必要性を実感する。</p> <p>いろいろな体験を関連させ、既習の学習とつなげて考え、今後の活動の見通しをもつことができる。</p>
<p>「もしものとき」佐倉地区は大丈夫？</p> <p>(10時間)</p>	<p>○ 地域を歩き、危険箇所を調べる。</p> <p>○ 地域の人にインタビューを行い、震災時の心配について調べる。</p> <p>○ 地域の備えについて調べる。</p>	<p>◎ フィールドワークを通して収集した地域の危険箇所についての情報や地域の人々にインタビューをして得た情報を整理し課題を見つけるとともに、課題を解決するために活動している人々の思いに触れ、その結び付きについて実感する。</p> <p>目的に合う情報の収集の仕方を選んだり、資料などを効果的に活用したりすることができる。</p>
<p>「自助」を確かにするために役立つ情報は？</p> <p>本時 1/8 (8時間)</p>	<p>○ 自分たちや地域の備えの必要性について考える。</p> <p>○ 自分たちが必要だと思うことについて広める準備をする。</p>	<p>◎ 自分たちの備えを見直し、足りないことや問題点を見つけたり、実際の災害時に起こり得ることを関連づけながら改善したりする。</p> <p>追究して分かったことや考えたことを表や図などに整理して効果的に表現することができる。</p>
<p>「自助」を充実するために情報を発信しよう</p> <p>(6時間)</p>	<p>○ 避難訓練や避難所体験、防災訓練の意義や価値を整理し、地域の人々や他の学校に、必要だと思うことについて提案する。</p> <p>○ 訓練を通して学んだことをリーフレット等にまとめ発信する。</p>	<p>◎ 自分たちの活動の成果を地域に役立つ形で発信し、自分たちも地域の一員としてできることがあることを実感する。</p> <p>◎ 防災に対する自分の思いを大切に、これからも自分たちにできることを取り組み続けようとする。</p> <p>追究したことを自分との関わりの視点から深め、地域社会で実践していこうとすることができる。</p>

5 本時の手立て

- ① 手立て1 単元構想図（活動のイメージ）の作成
目指す資質や能力を明確にし、他教科との関連を図った単元を構想することで、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い」「願い」を引き出し、学習に主体的に取り組むことができるようにする。
- ② 手立て2 思考ツールの活用
思考ツール（PMIシート）を活用することで、「避難所体験」を多面的に見て、自分の考えを整理させ、話し合いが焦点化できるようにする。
- ③ 手立て3 対話的に話し合う場の設定と話し合いのコーディネート
全体で対話的に話し合う場を設け、一人一人の考えを問い返したり、全体にゆさぶりをかけたりすることで、自分の考えをより深めたり、新しい考えを生み出したりできるようにする。



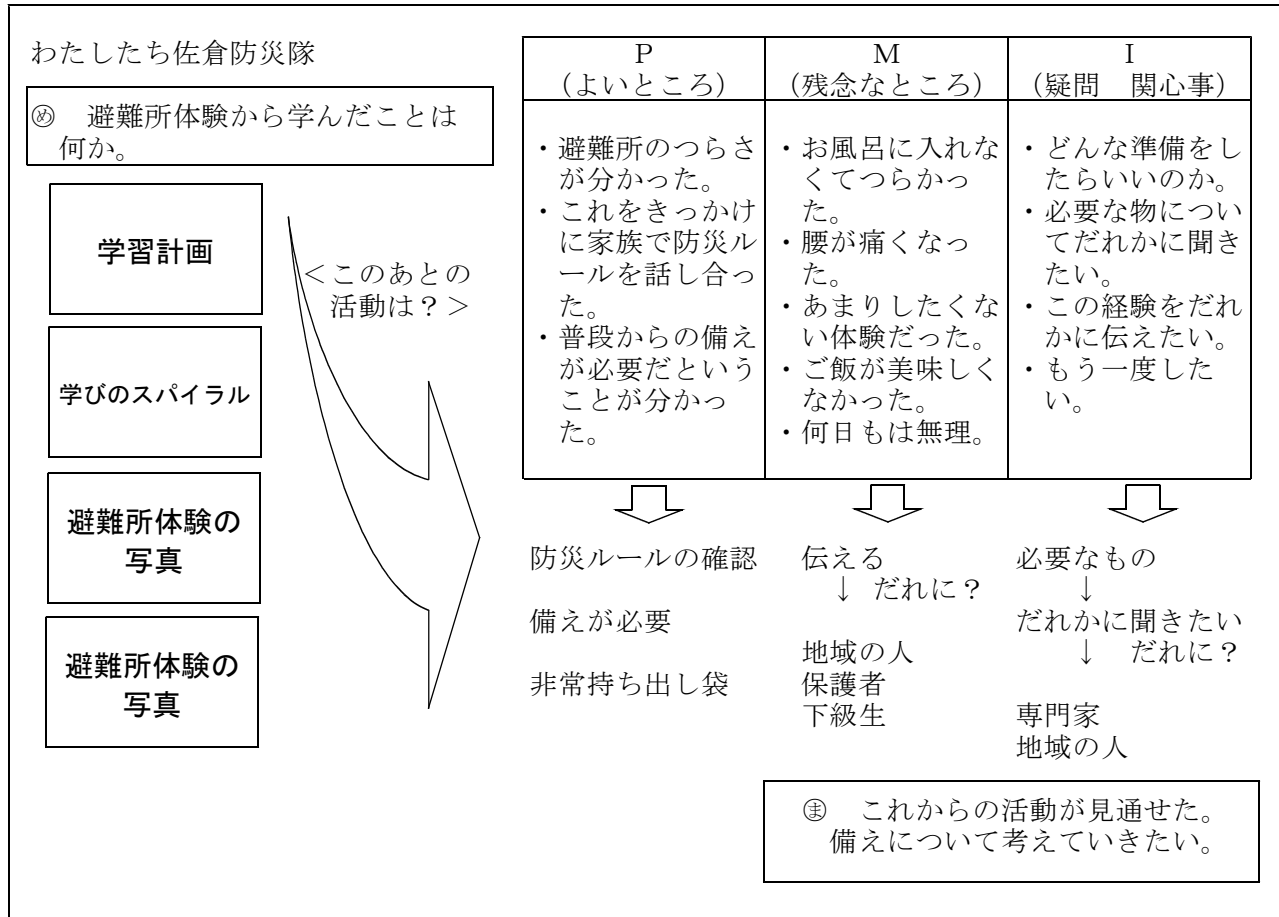
—— 目指す子どもの姿 ——

「避難所体験」から考えたことを、思考ツールを使って整理したり、話し合いを通してより考えを深めたりすることで、自分たちにできることは何かを考える子ども

6 本時のねらい

「避難所体験」から考えたことを、思考ツール（PMIシート）を使って整理したり、話し合いを通してより考えを深めたりすることで、自分たちの活動を見直し、今後の活動の見直しをもつことができる。

7 板書計画



8 学習過程

学習内容 ・ 活動	時間	・ 指導上の留意点 ○手立て ※評価
1 本時のめあてをつかむ。	5	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動を振り返ったり、学習計画を確認したりすることで、相手意識や目的意識をもって学習を進めていくことを再確認する。 学びのスパイラル（探究的な学習における姿図）を提示することで、今の立場を明確にし、これからの学習過程を見通したり、学習の着地点を確認したりして学習課題につなげる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「避難所体験」から学んだことは何か。</div> 2 「避難所体験」から学んだことについて、PMIシートについて話す。 <ul style="list-style-type: none"> 思考ツール「PMIシート」に、P（よいところ、メリット、長所）M（残念なところ、デメリット、短所）I（関心事、疑問、判断が付かない）の視点で話す。 避難所のつらさや大変さがよく分かった。（P） これをきっかけに、防災ルールについて話し合った。（P） 普段からの備えが必要だということがよく分かった。（P） お風呂に入れない、寒い、体が痛いという思いをした。（M） 二度としたくない。（M） どんな準備をしたらいいのか。（I） 必要な物についてだれかに聞きたい。（I） この経験をだれかに伝えたい。（I） 	1 0	<ul style="list-style-type: none"> 避難所体験の感想を紹介することで、避難所体験を想起させる。 PMIシートを準備し、P（よいところ）、M（残念なところ）、I（疑問）の視点で学んだことを整理したシートに沿って話させる。 体験をしたからこそ分かったこと、体験をしたからこそ実感した改善点や問題点を視点にするよう助言する。 <p>○ 思考ツール（PMIシート）を活用することで、「避難所体験」を多面的に見て、自分の考えを整理させ、話し合いが焦点化できるようにする。（手立て2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 思考ツールに書いた考えを見取り、価値付けすることで、自分の考えに自信をもたせ、話し合い活動へつなげるようにする。 <p>○ 全体で対話的に話し合う場を設け、一人一人の考えを問い返したり、全体にゆさぶりをかけたりすることで、自分の考えをより深めたり、新しい考えを生み出したりできるようにする。（手立て3）</p>
3 これからの活動をどうしたいのかについて話し合う。 <p>(1) 自分の考えを話す。</p> <p>(2) 互いの考えを聞いて思ったことを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所体験では、足りないものがたくさんあった。準備することが大切だ。 自分たちの足りないところが分かった。 家族で防災ルールを確認することが大切ではないか。 せっかくの体験をだれかに伝えたい。 災害への備えを十分にしたい。 どんなものを備えたらよいかだれかに話を聞きたい。 	2 5	<ul style="list-style-type: none"> 今後の活動を見通すことができるように、何ができていて（分かっている）、何ができていない（分かっていない）のかを整理できるようにする。 必要な人、もの、ことについては、可能な限り準備できることを伝え、学習をよりよいものにしていけるようにする。 話し合いにより、一人一人の考えが深まっていることを見取り、価値付けすることで、次の学習へ意欲をもてるようにする。 <p>※ 思考ツール（PMIシート）を使って整理したり、話し合いを通してより考えを深めたりすることで、自分たちの活動を見直し、これからの活動を見通すことができる。</p>
4 本時の学習を振り返る。	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時の話し合いを通して、自分の考えを整理したことや話し合いにより考えを深めことを称賛して価値付け、次時の学習へつなげる。

